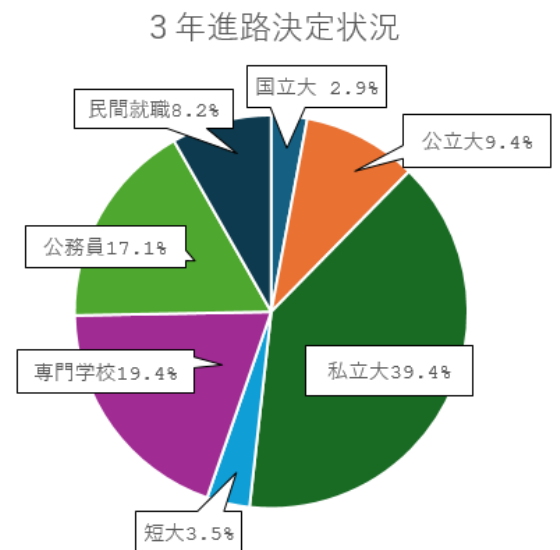


3 学年 ～現在の進路決定状況～

2月21日現在、3年生の進路決定率は全体の90.4%となりました。その内訳は次の通りです。国公立大学進学者21名、私立大学進学者67名、専門学校・短期大学等進学者39名、公務員29名、民間就職者14名。

今年度は、私立大学、専門学校、公務員の割合が例年より高かったことが大きな特徴です。残る一般選抜で挑戦している十数名の生徒により、56回生の進路がすべて決定する予定です。現在戦っている一般選抜受験生の健闘を祈ります。



2 学年 ～進路志望調査結果概要～

右表の結果は、前回（5月末）に実施された、第一回の進路志望調査との比較です。前回に比べ、進路未定者と国立大学志望者が減少していることがわかります。その分、就職や私立大学の希望者が増えています。2年生の後半、より現実的・具体的に進路を考えようとする生徒やご家庭の進路志向が反映しているのかもしれない。

一方、表にはありませんが、就職志望の生徒45名のうち、公務員を志望する生徒は27名でした。ただし、現在、本校で実施中の公務員学内対策講座（外部講師による公務員試験対策講習）に参加している生徒は14名。その点からみると、まだ志望と現実の動きがマッチしていない様子もうかがえます。公務員試験は、進学よりも早い時期に行われますから、すでに受験戦線はスタートしていると考えてよいでしょう。

進路について、いよいよ具体的に動き出す時期にきています。3月11日からは公務員学内講座第Ⅲ期、3月27・28日には進学者向けの春期講習が予定されています（申込みはまだ間に合います）周囲に流されず、しっかりと自己分析や志望先研究を行うとともに、経済的な面でどんな選択が可能なのか、保護者ともよく話し合っておく必要があります。

2 学年の進路志望調査結果（12月）（5月末）

区 分	今 回		前 回	
	人数	(%)	人数	(%)
国 立 大	30 人	(16.0%)	42 人	(21.4%)
公 立 大	35 人	(18.6%)	39 人	(19.9%)
私 立 大	48 人	(25.5%)	43 人	(21.9%)
国 公 立 短 大	1 人	(0.5%)	0 人	(0.0%)
私 立 短 大	8 人	(4.3%)	6 人	(3.1%)
専 修 学 校 等	20 人	(10.6%)	20 人	(10.2%)
就 職	45 人	(23.9%)	41 人	(20.9%)
未 定	1 人	(0.5%)	5 人	(2.6%)
合 計	188 人		196 人	

やっぱり心配 ～お金の話～

1 いくらかかるのか

学費には、入学時に納める入学金と、年ごとにかかる授業料や諸費用があります。国立大学は一部を除いて全国一律ですが、公立大学は地域内と地域外で異なります。私立大学は学校・学部ごとに異なりますので調べてみましょう（※蛭雪時代11月号に学費早見表が掲載されています）。学費の他に、住居費や食費などの生活のための費用も考えておかなければなりません。進学先に寮はあるか、出願時に英検などの資格の有無によって入学金減免制度はあるか、入学後の特待生制度など、細かな点は、進学先のHPだけでなく、オープンキャンパスや進学相談会などに足を運んで情報収集しましょう。

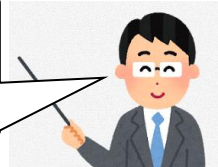
2 いつ払うのか

総合型、学校推薦型選抜が増加するにつれ、合格発表後の納付期限も早期化しています。つまり、そのような選抜方法で合格した場合は、10月～12月に入学金（+前期授業料等の場合もあります）として、ある程度まとまったお金を払うことになるということで、これは専門学校等も同様です。このような支払いには、奨学金を利用した場合でも時期的に間に合わないため、注意が必要です。

3 奨学金や教育ローンについて

日本学生支援機構の奨学金は、高校3年次の4月下旬から予約採用の募集が始まります。他に、給付型奨学金（高等教育の修学支援新制度）や県の奨学金、大学独自のものもあり、さらにひとり親、多子世帯、低所得世帯には優遇利息で利用できるローンや、福祉分野の貸し付け制度などがあります。詳しい内容や賢い利用方法について、4月26日には「株式会社まなびシード」から講師を招いて奨学金セミナーを開催する予定ですので、ぜひご利用ください。保護者と生徒本人と一緒に参加できるよう計画しています。（申し込み等詳細については3月に改めてご案内します）

進学費用について、保護者と話し合ったことはありますか？よく聞く「奨学金を借りる」とは「自分が将来払う」ということです。保護者に任せっきりで自分は何も知らないということがないように、この機会によく調べ考えましょう。



2025年度より、国のこども未来戦略（令和5年閣議決定）に基づき、多子世帯（扶養する子どもが3人以上いる世帯）に対して、所得制限なく、子の大学授業料等を国が定める一定額まで無償化（減免）する制度が開始される予定です。

この制度によって、費用負担が全くなくなるわけではありません。進学する大学によっては、授業料・設備費・実習費用・教科書代などの合計が支援額を上回る可能性もあります。

同制度には学業要件が定められていて、一定の学習意欲と学修成果を測る要件を満たさなければ、支援は打ち切りとなる場合もある点に注意が必要です。詳しい説明は、保護者進路研修会（4/26）でどうぞ！



進路関連行事報告

合格者体験報告会（1、2学年）が行われました

1月31日（金）、進路が決定した本校3年生による合格者体験報告会が行われました。1・2年生は8分野に分かれ、どのような準備や対策を行って試験に臨んだか、本番の試験はどのようなものであったか等を詳しく聞きました。また、面接の実演を見たり、選抜の指導に携わった先生方から講評やアドバイスをいただくなどの時間もありました。どの分野にも共通するのは「早く進路を決め、動き出すこと」「授業や総合的な探究に主体的に取り組むこと」「課外活動等への積極的な参加で主張できるものを増やすこと」「丁寧な情報収集」などの重要性です。今回受けた刺激を忘れずに、今からの進路研究と対策に結びつけていきましょう。発表者の3年生の皆さん、ありがとうございました。

合格者体験報告会のレポートから

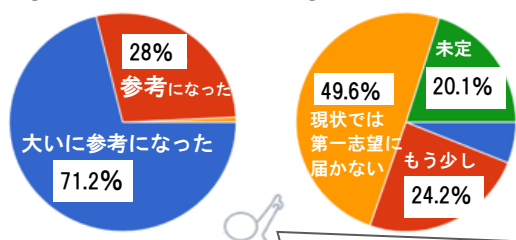
- ・（先輩方は）英検の取得だけでなく、色々なところに聞き込みに行ったりして行動力があると思った。総合型選抜で落ちても、すぐに気持ちを切り替えて次の選抜の準備に取り掛かっていたことも見習いたいと思った。（経営・経済分野、2年）
- ・総合型選抜は一般選抜と比べて受験が早く終わって楽そうだと思っていたけど、とても大変に感じた。発表してくれた3人はみな早くから準備していたことが分かった。…（略）将来は大学に進学したいと考えているので、先輩たちのようにスキルアッププログラムや英検の勉強をしようと思った。（経営・経済分野、1年）
- ・いま私は、小さい子どもを教育する仕事に就きたい。かつ、青森県内の大学への進学を望んでいる。だが、その大学でやりたいことは何か。その大学で本当に良いのか改めて考えていく必要があると感じた。（保育・栄養・福祉分野、2年）
- ・自分が志望する大学の試験問題を実際に見てみて、英語の長文問題はやっぱり英単語がしっかりできていないといけななだと思いました。…（略）英語が得意な人でも、試験問題は難しいと言っていたので、焦らないように重点的に過去問などに取り組むべきだと思いました。（看護分野、1年）
- ・進路志望のきっかけや理由が全員違い、大学によってその学校の魅力や特徴なども様々だから、3人の発表を聞いて良い情報収集ができたと思いました。理学療法、作業療法で面接の内容が違ったり、筆記試験も違うことがわかりました。進路達成にむけて3人の先輩方が共通していた取り組みは、ボランティアやグループワーク、オープンキャンパス等の活動に力を入れていたことでした。（医療分野、1年）
- ・全員、高校の総合的な探究や自分の実体験など、志望するきっかけが明確であった。自分のやりたい事や興味があることと、進路達成への取り組みをつなげていて、アピールポイントにしていた。（略）興味のある研究の論文をたくさん読むことで、理解を深めることも大切だと言っていたので、これから興味のあるものを探していこうと思った。しっかり勉強するために、集中できる環境を見つけることが大切と言っていたので、家や放課後、図書館など、自分に合った勉強場所も気にしていきたいと思う。（生物分野、1年）
- ・私は今回の合格者体験報告会を通じて、民間就職への意志が高まりました。今までは就職だと勉強することがなくなって、勉強とは無縁になると思っていましたが、大学受験よりもある意味勉強する必要があると聞いて頑張らなくてはいけないと思いました。（就職・公務員分野、2年）
- ・進路について悩んだら、一人で考えず、まずは先生とよく話すことが大事だと感じた。小論文が一番大変そうだと感じた。小論文は世の中について問われることがあるので、本を読んで社会について知っておくことが大事。また、デザイン系の学校だと、自分の作品を紹介するプレゼンテーションや実技があると知った。まず、学力が足りない（自分に）、日々の授業の振り返り、提出物に提出日をメモしたり、授業態度をしっかりとする。英検の準2級は取得する。志望大学についてもう少し方針や場所などを調べ、オープンキャンパスに行く。出席日数も大切になるから休まないように、健康に気を付ける。（人文・地域分野、1年）

進路について情報収集しよう！

- ◆HPをチェックする
- ◆オープンキャンパスや公開講座に行く
- ◆進学相談会や説明会に行く
- ◆「進路の手引」や「蛍雪時代」などの資料を見る
- ◆3階の小ホールに行ってみる
（学校案内のパンフレットや求人票、各校の過去問や赤本を閲覧できます）

1・2学年アンケート結果

①進路の参考になった？ ②自分自身の取り組みは…



事後のアンケート結果では、①「合格者体験報告会が進路目標を達成するために何をすべきか考える参考になったか」という問いに対して、「大いに参考になった」「参考になった」の合計が1・2学年総計で 99.2%となりました。また、講座参加前後の進路に関する気持ちの変化については、「あった」が 56.4%、「少しあった」が 36.7%の合計 93.1%でした。また、気持ちの変化について、「進路に向けてがんばろうという気持ちが強くなった」が 76.5%、「進路についてもっとよく調べてみようと思った」が 64.4%（複数回答可）となりました。一方で、②「自分が進路目標にどのくらい取り組んでいるか」に対しては、「現在の努力では第一志望に届かない」は 49.6%、「もう少し努力すれば達成できそう」が 24.2%。「まだ目標自体が定まっていない」と答えた人は 20.1%でした。まずは、興味のあることから調べ始めるなど、今の考えに固執せず、視野を広げて色々な体験活動や講座に参加してみてもいいでしょう。

活躍する北高生 ～スキルアップ100単位取得！～

今回は、青北高の在校生3年 小野 月星（おのるな）さんをご紹介します。

「高校生スキルアッププログラム」とは、学校外学修で身につけたスキルを、青森県教育委員会が単位として認定する制度です。この制度は、高校生が知識や経験の幅を広げ、社会の変化に柔軟に対応してたくましく生きるために様々なスキルを身に付け向上することを目的としています。

県総合社会教育センターから発行された、高校生スキルアップニュース特別号では、小野さんに参加のきっかけや活動時の苦労などをインタビューする記事が掲載されました。今回は、活動を通じて彼女が得た実感や進路との関連、将来についてインタビューをしました。

①まず、100単位以上を取得するのは大変だったのでは？

—そうですね（笑）レポートを書くのは大変でしたが、でも、書き方が身に付くと、段々慣れていきました。



令和6年9月に249単位を達成。県民カレッジ認定証、奨励賞（学士賞）を取得した。100単位以上を取得した高校生は小野さんで、6人目の快挙。

②参加した様々な課外活動の中で、一番自分を成長させた活動は？

—異年齢交流による成長と学びを目的とした高校生と大学生の学生団体「レスタ」です。そこで、「絵本を作ろう」という企画のチーフを引き受けました。wordで実施要項を作り、施設使用の手続きや協賛団体の名義使用申請をするなど、大人になったなあ、普通の高校生活でなかなか任せられないことをやっているなあと感じました。

③活動は、自身の進路や将来の展望に生かされていますか？

—はい。レスタの活動では、大学生が常に活動の改善点を提示してくれるのですが、そこで視野が広がって、自分もこのような大学生になりたいと思って進学を決めました。社教センターで行う、月1回小中学生対象の「寺子屋」活動を通じて、他校生と自分のスキルの差を知り、自分もこうなりたいという目標や理想を待ちました、また、子育て支援の充実という面を将来のテーマとして、公共経済学を学びたいという考えを持つに至り、大学入試の面接場面で主張することにつながりました。

④大学生になったら、どのような活動をしたいですか？

—生涯学習活動をサポートする「学びサポーター」になって、むつ市など県内各地にも行ってみたいですね。ボランティア活動の幅を広げていきたいです。